



20日(金)は、東京海洋大学越中島キャンパス(旧東京商船大学)で行われた、「海と日本プロジェクト 海洋教育シンポジウム」に参加しました。三浦市からは高校生を含む4人が出席しました。

冒頭、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターの田中センター長が、自然が贈り人が与(あずか)る関係としての「海と人との共生」を海洋教育の理念として提示されました。

その他、様々な講演や問題提起、岩手県洋野町の小学校の実践、そしてパネルディスカッション、と盛りだくさんの内容でした。海洋教育の民間での取り組みについての話の中では、本研究所も紹介されました。



パネルディスカッションには、さかなクンも参加し、ファシリテーターの先生が、「さかなクンのこれまでの生き方は、究極の体験活動だ」という指摘をされたのが印象的でした。終了後、キャンパス内に展示されている明治丸を見学しました。「海の日」の由来になった船だそうです。



17日(火)に、名向小学校5年生が、小網代湾で、乗船体験をしました。

小パール隊の出口さんの釣り船で、クラスごとに小網代の海へ出発します。最初に、先日自分たちが核入れしたアコヤガイの現在の様子を見せてもらいました。次に、マダイの中間育成場所(湾内)を見学、県栽培漁業協会の皆さんが、エサをまいてくれ、子どもたちは、エサに群がるマダイの稚魚に歓声を上げていました。その後、アコヤガイの養殖いかだを見学し、湾を出て外海へクルーズ。子どもたちは、波しぶきを浴びながらも、大喜びでした。



その後、小パール隊の事務所で、日高さんのお話を聞きました。小網代の森、干潟、小網代湾のつながりについてくわしく説明していただきました。「大人になっても、三浦のすばらしい海が残るように、みんなに考えてほしい」と、お話を結ばれました。子どもたちは真剣に話を聞き、メモを取っていました。



3月1日より先生方のPC上に、「海洋教育カリキュラム一覧」というリンクアイコンが存在しています。海洋教育カリキュラムを投稿、閲覧可能なイントラネットサイトです。すでに、20本の実践例がアップされています。皆さんの実践を共有できるように、積極的に投稿、閲覧してください。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで